

鈴鹿サーキット 2013年および今後の活動内容ならびに 新たな海外事業への参画について

鈴鹿サーキットは、昨年の9月に開場50周年となる節目を迎えました。

新たな時代へのスタートの年となる2013年は、アジアに目を向けた新規レースイベントの開催や海外事業への参画など、これまでにない取り組みで、次の50年に向けて力強く踏み出してまいります。

さらに1年を通じて開催される国内外のモータースポーツイベントでは、ご来場いただくお客様の期待を超える様々な企画展開を計画しております。

2013年も進化し、挑戦する鈴鹿サーキットにご期待ください。



- 2013年および今後の鈴鹿サーキットの活動内容について P. 2
- 鈴鹿サーキットの新たな海外事業への参画について P. 8

2013年および今後の鈴鹿サーキットの活動内容について

① 2013年に鈴鹿サーキットで開催されるレース (P. 3)

今年は25回目という節目の大会となるF1日本グランプリレースをはじめ、36回目の歴史と伝統を誇る“コカ・コーラ ゼロ”鈴鹿8時間耐久ロードレースなど、国内外の様々なビッグレースを開催いたします。特に歴史あるレースでは伝説のマシンや往年の選手をゲストに招くなど、鈴鹿サーキットならではの魅力溢れるイベントを展開してまいります。



F1世界選手権 日本グランプリレース
(2012年スタートシーン)

② 「FIMアジアロードレース選手権」を鈴鹿初開催！ (P. 6)

アジアNo.1を決めるバイクレース、アジアロードレース選手権シリーズを鈴鹿サーキットで今年初開催いたします。



アジアロードレース選手権
(イメージ)

③ 家族で楽しめる世界に類のないモビリティテーマパークとして進化 (P. 7)

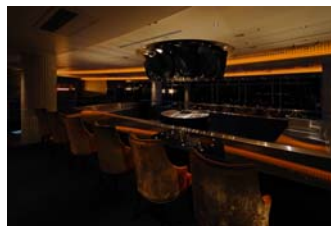
鈴鹿サーキットの原点である「操る喜び」。このコンセプトは創業当初から50年以上に渡り受け継がれています。ゆうえんちモトピアには3歳のお子さまから自由に操ることができる乗り物をはじめ、様々なモビリティが揃っています。本物のモータースポーツと、誰もが体験できる乗り物、さらにはホテル、温泉、レストランという、世界に類をみない総合リゾート施設「鈴鹿サーキット」は今年も更なる進化を遂げます。



レーシングシアター
(メインシアター)



モトピアの乗り物
(プッチグランプリ)



エンターテインメントグリル&バー
SHUN



鈴鹿サーキットホテル
(ファミリールーム)



鈴鹿サーキット ファミリーキャンプ
ウッドデッキテラスサイト



天然温泉クア・ガーデン
(露天風呂)

2013年に鈴鹿サーキットで開催されるレース

【F1日本グランプリ】

<10月11日(金)~13日(日)>



語り継ぎたい走りがある。

2013 JAPANESE GRAND PRIX

1987年の初開催以来、25回目となるF1日本グランプリを開催いたします。この記念すべき25回大会を“語り継ぎたい走りがある。”のテーマのもと、鈴鹿初代ウィナーであるゲルハルト・ベルガー氏を招聘するなど、広い世代のF1ファンにお楽しみいただけるイベントを実施いたします。

鈴鹿2勝目を飾った栄光のマシン、マクラーレンMP4/6でデモ走行!

鈴鹿サーキットで初めて開催された1987年のF1日本グランプリ。中嶋悟氏の凱旋ランに沸いた中、決勝レースを制したのがフェラーリのゲルハルト・ベルガー氏でした。ベルガー氏は1991年にも日本グランプリで優勝し、鈴鹿サーキット2勝を記録しています。

ベルガー氏には1991年に鈴鹿で2度目の優勝を飾ったマクラーレンMP4/6でのデモ走行をはじめ、トークショーに出演していただく予定です。



1987年F1日本グランプリ



1991年F1日本グランプリ ゴールシーン



1991年F1日本グランプリ表彰台
A・セナ(左)とベルガー氏(中央)
右は3位のR・パトレーゼ(ウィリアムズ)

ゲルハルト・ベルガー氏 メッセージ

日本にいる私のサポーターへ:

「何年も日本に行くことがなかったので、久しぶりに今年、鈴鹿サーキットに招待されてとても光栄に思います。私は1987年と1991年の鈴鹿での勝利と、そこで過ごした素晴らしい時間を決して忘れません。特に、とても心の温かく、礼儀正しくて熱狂的だった日本のファンのことをよく覚えています。2013年の鈴鹿でのF1日本グランプリは記念となる25回目を迎え、私が1991年に乗っていたマクラーレンで今回デモ走行をするのが大変楽しみです。サーキットで皆さんと素晴らしい時間を過ごすことが待ち遠しいです」

株式会社 モビリティランド 鈴鹿サーキット

〒510-0295 三重県鈴鹿市稲生町7992 TEL(059)378-1111 FAX(059)378-4568 URL <http://www.suzukacircuit.jp/>

【“コカ・コーラ ゼロ”鈴鹿8時間耐久ロードレース】

<7月25日(木)~28日(日)>



2012年鈴鹿8耐
スタートシーン



レジェンドライダーによるデモラン
(2012年鈴鹿サーキット50周年
アニバーサリーデーの様子)

1978年からスタートし、今年で36回目となる“コカ・コーラ ゼロ”鈴鹿8時間耐久ロードレースは、毎年真夏に開催され、世界で最も過酷なバイクレースとされています。今年にはアジアからの新たなエントリーをはじめ、エントリー台数を増加させ盛り上げてまいります。さらにはレジェンドライダーの登場など、鈴鹿サーキットならではの魅力を高めてまいります。

【鈴鹿1000km】

<8月17日(土)・18日(日)>



2012年鈴鹿1000km
スタートシーン



過去の鈴鹿1000kmを走った
マシンによるデモラン
(2012年鈴鹿サーキット50周年
アニバーサリーデーの様子)

ニューマシンも登場し、ますます激戦が予想されるSUPER GT。今年42回目を迎える伝統の鈴鹿1000kmはSUPER GTの第5戦として開催されます。真夏の1000kmという過酷な環境下で鍛えられた国産車が世界との差を劇的に縮めていった歴史は、まさに日本の自動車産業発展の歴史とも言えます。今年の鈴鹿1000kmでは、この歴史をさらに紐解き、鈴鹿サーキットならではのイベントを開催いたします。

【世界ツーリングカー選手権(WTCC)】

<9月21日(土)・22日(日)>



WTCC
2012年日本ラウンドのレース
シーン



2012年日本ラウンドに参戦した
シビック

鈴鹿サーキット国際レーシングコースのテクニカルセクションである東コースを舞台に、今年で3回目の開催となる世界ツーリングカー選手権(WTCC)。激しいバトルが特徴のこのレースは、絶えず接近戦が繰り広げられ「格闘技レース」とも呼ばれています。昨年、日本ラウンドでスポット参戦したHondaは2人の元F1ドライバー、ガブリエーレ・タルキーニとティアゴ・モンテイロを揃えてシビックでフル参戦。その活躍に注目が集まります。また国内外の多彩な車種が参戦するレース、スーパー耐久も併催いたします。

【鈴鹿2&4レース】

<4月13日(土)・14日(日)>

鈴鹿2&4レースは、鈴鹿サーキットを舞台に2輪、4輪の国内トップクラスのレースが同時に開催されるビッグイベントであると共に、1975年に初開催された長い歴史を誇る伝統のイベントでもあります。今年は、これまでF1やインディカーシリーズなど世界を舞台に活躍する佐藤琢磨選手が、スーパーフォーミュラの開幕戦となる鈴鹿2&4レースと、最終戦の2戦に参戦します。

また鈴鹿2&4レース当日は、モータースポーツだけでなく、家族で楽しめるイベントとして『Enjoy Honda SUZUKA 2013』も併催されます。



スーパーフォーミュラ
(写真は2012年フォーミュラ・ニッポン)



全日本ロードレースJSB1000



佐藤琢磨選手

【スーパーフォーミュラ最終戦】

<11月9日(土)・10日(日)>



2012年 フォーミュラ・ニッポン スタートシーン

新生スーパーフォーミュラは鈴鹿2&4レースで開幕。そして同じく鈴鹿で2013年シーズンの幕を閉じます。シーズンを締めくくる注目の最終戦は2レース制で、2012年は奇跡の大逆転劇が起こり、中嶋一貴選手が初のチャンピオンを獲得するというドラマがありました。今年も最後まで目の離せない、注目のレースとなるでしょう。

【全日本ロードレース選手権 最終戦】

<11月2日(土)・3日(日)>



2012年 JSB1000 スタートシーン

全日本ロードレース最終戦 MFJグランプリは、鈴鹿2&4レースで開催されたJSB1000に加え、ST600、J-GP2、J-GP3の4クラスを開催いたします。特に最高峰クラスは2レース制となっており、チャンピオン争いに注目が集まるレースとなります。

【D1 GRAND PRIX】

<5月25日(土)・26日(日)>



D1グランプリ

【Ene-1GP】

<8月4日(日)>



Ene-1GP

【ソーラーカーレース】

<8月2日(金)・3日(土)>



ソーラーカーレース

ドリフト走行の美しさや迫力が魅力のD1グランプリ。充電式単3電池40本だけで鈴鹿サーキット1周のタイムアタックを3回行い、その合計タイムを競うEne-1GP。ソーラーバッテリーで5時間(一部のクラスは4時間)の耐久レースを行うソーラーカーレース。他にもクラブマンレース、サンデーロードレースなど、鈴鹿サーキットは様々なレース・イベントを開催いたします。

株式会社 モビリティランド 鈴鹿サーキット

〒510-0295 三重県鈴鹿市稲生町7992 TEL(059)378-1111 FAX(059)378-4568 URL <http://www.suzukacircuit.jp/>

「FIMアジアロードレース選手権」を鈴鹿初開催！

アジアNo.1を決める最高峰のバイクレースシリーズ「FIMアジアロードレース選手権」を鈴鹿サーキットで初開催いたします。

「FIMアジアロードレース選手権」は1996年から開催され、現在は「スーパースポーツ600cc (SS600)」クラスを最高峰に、アジアドリームカップ (ADC)、アンダーボーン (UB115) の3つのクラスで争われています。Honda、ヤマハ、スズキ、カワサキの4メーカーが参戦しており、これまで日本人ライダーが合計11回のチャンピオンに輝くなど、ジャパンパワーが活躍しています。

シリーズは5カ国 (マレーシア、インドネシア、インド、カタール、日本)、6つのサーキットで開催され、昨年は清成龍一選手、一昨年は藤原克昭選手がシリーズチャンピオンを獲得。今年は玉田誠選手の初参戦が決定しており、最高峰クラスでの日本人による3連覇の期待がかかっています。

■開催日: 2013年8月31日 (土)・9月1日 (日)

■大会名: 2013 FIMアジアロードレース選手権シリーズ 第4戦 日本ラウンド

開催カテゴリー

スーパースポーツ600cc (SS600)



アジアロードレースの最高峰クラス。Honda、ヤマハ、カワサキ、スズキのバイクが参戦し、ライダーも日本、マレーシア、インドネシア、タイ、オーストラリア、インドなどから参戦しています。2000年から始まったこのクラスは、2002年から浜口俊之選手が5連覇を達成し、2008年にもチャンピオンを獲得。2011年は藤原克昭選手が、2012年は清成龍一選手がチャンピオンに輝くなど、日本人選手が活躍しています。

アジアドリームカップ (ADC)



Honda CBR250RRのワンメイクで開催されるこのクラスは、明確なステップアップ制度が整えられています。日本国内では全国15ヶ所のサーキットで開催されるCBR250Rカップ。各シリーズの上位ライダーは、12月に国内の「グランドチャンピオン大会」に参戦。ここで代表に選ばれるとこの「アジアドリームカップ」に参戦できます。さらにアジアドリームカップで優秀な成績を収めると、世界選手権Moto3クラスへのスポット参戦の可能性を与えられるため、世界での活躍を目指す、多くの若いライダーが参戦しています。

アンダーボーン115cc (UB115)



アンダーボーンはスクーターのようにフレームが車体下側に配置された独特な形状をしています。Honda、ヤマハ、カワサキ、スズキの115ccマシンが参戦し、東南アジアでは大きな人気を誇っています。その接近戦と激しいアクションが魅力で、日本のファンの間でも人気が高まっている注目のクラスです。

家族で楽しめる世界に類のないモビリティテーマパークとして進化



【3月2日(土)】

冒険型シューティングアトラクション

「バットのパワークリスタルハント」新登場！

新アトラクション「バットのパワークリスタルハント」が誕生いたします。鉱山の奥深くに眠るエネルギー鉱石「パワークリスタル」を探すため採掘車に乗り、家族や仲間と冒険へ行くストーリーのシューティングアトラクションです。



【4月12日(金)】

「鈴鹿サーキット ファミリーキャンプ」リニューアルオープン！

鈴鹿サーキットの「オートキャンプフィールド」が、小さなお子さま連れのファミリーでも手軽にキャンプを楽しめるように、「鈴鹿サーキット ファミリーキャンプ」へとリニューアルいたします。初めてキャンプをするファミリー、お子さま連れでテントや料理の準備に不安があるファミリーをサポートするために、様々なプランを用意いたします。

鈴鹿サーキットMAP



鈴鹿サーキットの新たな海外事業への参画について

台湾におけるモビリティ事業の基本合意について

株式会社モビリティランドは、大魯閣株式会社(所在地:台湾)と、複合商業施設での鈴鹿サーキットのライセンス使用、およびアミューズメント施設へのコンサルティング業務について基本合意をいたしました。

大魯閣株式会社は台湾・高雄市において、ショッピングモールとアミューズメントエリアを併設した複合商業施設を計画しており、鈴鹿サーキット国際レーシングコースのレイアウトをイメージしたレンタルカートコースや、モビリティランドのオリジナルの遊戯機種を導入する予定です。

今後は2015年10月の開業を目指し、準備が進められます。

完成予想パース図(イメージ)



施設名 : TAROKO MALL 草衙道(CAOYADAO)

総面積 : 86,000平方メートル

施設内容 : 4つのエリアから構成。

- ・屋外型ショッピングエリア
- ・3階建て商業棟(屋内ショッピングエリア)
- ・SUZUKA CIRCUIT PARK
- ・屋内アミューズメント(温浴施設・シネマコンプレックス・スポーツジム他)

【SUZUKA CIRCUIT PARK】



テーマは『チャレンジ!』。本格的なカートコースは鈴鹿サーキットのレイアウトを採用し、初めて体験する子どもから、熟練のドライバーまで誰もが楽しめるよう、多彩なコーナーを盛り込みました。またカートコースだけでなく、小さなお子様でも自ら操縦して楽しめる乗り物を多数用意し、遊びを通じて様々なチャレンジが出来る仕掛けを多数用意いたします。また、遊びながら交通ルールを学ぶことができる仕組みも取り入れていきます。

コース全長 : 約580m

コース幅 : 直線 約8m、コーナー 約10m

※立体交差あり

株式会社 モビリティランド 鈴鹿サーキット

〒510-0295 三重県鈴鹿市稲生町7992 TEL(059)378-1111 FAX(059)378-4568 URL <http://www.suzukacircuit.jp/>

関係者コメント

三重県知事 鈴木英敬氏

「本日は、モータースポーツファン感謝デーが鈴鹿サーキットにおいて盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。三重県では、今年、20年に一度の神宮式年遷宮、来年は、熊野古道世界遺産登録10周年を迎えます。これらの機会を捉え、平成25年4月から3年間、「三重県観光キャンペーン～実はそれ、ぜんぶ三重なんです！～」を実施し三重の魅力を発信していきます。また、今年5月の「2013日台観光サミットin三重」をきっかけに台湾における三重県の認知度向上と台湾からの誘客に特に力を入れていきます。鈴鹿サーキットにおかれましても、台湾企業と連携した「台湾高雄プロジェクト」を実施されるとお伺いしております。今後、より一層、台湾と三重県の相互交流が活性化することを期待しております。最後になりましたが、鈴鹿サーキットをはじめとするモータースポーツの今後の発展を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。」

鈴鹿市長 末松則子氏

「鈴鹿サーキットが日本のモータースポーツの聖地として確固たる地位を確立され、昨年めでたく開場50周年を迎えられました。鈴鹿サーキットは、鈴鹿市の貴重な観光資源の一つとして、年間を通して多くの集客があり、鈴鹿と言えば『鈴鹿サーキット』と言われるほど、本市の知名度やブランドイメージの向上に貢献していただいております。この度、鈴鹿サーキットが台湾企業と連携した『台湾高雄プロジェクト』に参画されると伺い、『モータースポーツ都市宣言』をしているまちとして、本市の魅力を益々国内外に精力的に発信して参りたいと存じますので、今後もたくさんの皆様に鈴鹿市並びに鈴鹿サーキットを楽しんでいただければ幸いです。」

高雄市長 陳菊氏

「本日はお招きを受け、鈴鹿サーキットを訪れたことをとても嬉しく思っております。
台湾・高雄市は若さ溢れんばかりの、エネルギーとクリエイティブが満ちる都市です。昨年は日本から140万人を超える観光客が台湾を訪れました。高雄市は台湾の南に位置し、温暖な気候、豊かな物産に恵まれ、情熱のある市民が暮らしています。今年5月には、三重県で日台観光サミットの開催が予定され、また9月には、高雄市で46カ国、100以上の都市をお招きして「2013 アジア太平洋都市サミット」を開催いたします。高雄市277万人市民を代表して、皆様方にはぜひ雄大かつ美しい山々や広大な海港、農水産物豊かな高雄へお招き申し上げます。私たちは陽光の暖かさほどの情熱をもっておもてなしいたしたいと存じます。」

大魯閣株式会社 副会長 謝國棟氏

「この『鈴鹿』で私達のプロジェクトを発表できます事を大変嬉しく思います。私は日本留学中に様々な素晴らしい文化、中でも健全なモータースポーツ文化に強く共感を受けました。台湾に戻ってからもSMSC会員として鈴鹿サーキットの走行を重ね、改めてコース形状の素晴らしさだけでなく、子供達の成長を感じ取ることが出来る遊園地や、快適なリゾート空間など、この『鈴鹿』に魅了された私は、この空間を台湾でも実現したいとの想いから、今回のプロジェクトに繋がりました。半世紀にもわたる鈴鹿サーキットのノウハウを活かし、必ずや新たな『鈴鹿』を台湾・高雄の地で実現いたしますので、開業の際には、皆様の来場をお待ちしております。」

株式会社モビリティランド 取締役社長 曾田浩

「このたび、大魯閣株式会社と基本合意に達しました。アジアは我々にとって今後重要なマーケットとなります。これから細部について調整を重ねて行くこととなりますが、モビリティが持つ楽しさを一人でも多くの皆様に共感いただけるよう、実現に向けて力を合わせて参りたいと思います」